

伊豆市自転車まちづくり基本計画 (伊豆市自転車活用推進計画) 【改訂版】



令和4年5月

伊豆市

「伊豆市自転車まちづくり基本計画」の位置付け

国は「自転車活用推進法（平成 28 年法律第 113 号）」を平成 29 年 5 月 1 日に施行し、都道府県・市町村において自転車活用推進計画を定めるよう努める旨を記しており、静岡県では、平成 31 年 3 月に「静岡県自転車活用推進計画」を策定しています。

このような中、本市が平成 29 年 3 月に策定した「伊豆市自転車まちづくり基本計画」を、自転車活用推進法第 11 条（市町村自転車活用推進計画）に基づいた、伊豆市における自転車活用推進計画として位置付けます。

令和 3 年 3 月

伊豆市自転車まちづくり基本計画策定にあたって



伊豆市は、日本サイクルスポーツセンターや日本競輪学校の所在地であり、これまで自転車スポーツ・レジャーの聖地としてのイメージ作りに取り組んできました。そのような中、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における自転車競技の開催地に決定したことは、自転車をテーマとする地域づくりを進めていく上で、他に類を見ない絶好の機会を得たこととなります。この好機を捉え、現在、「自転車と伊豆 今、走り出す」のキャッチフレーズのもと、伊豆市に自転車文化を根付かせることを目的として政策を進めているところです。

自転車は、子供からご年配の方まで利用できる乗り物で、乗ること自体が健康づくりにもつながります。自転車の速度だと、普段自動車に乗ってでは目に入らない自然や風景、さらには道端のゴミなどが見えてきます。例えば、3万人の市民が気づいたときにゴミ拾いを行うだけでも、まちがきれいになり、自転車まちづくりにつながっていくと考えています。このように、自転車の利用環境の改善には、市民が自ら解決できることも少なくありません。

一方で、伊豆市は山がちで起伏が激しく、自転車を利用しにくい地形であることから、残念ながら、市民の自転車利用は少ない状況にあります。また、自転車の走行環境や施設の受け入れ体制等が不十分なところもあり、今後しっかりと対応していく必要があります。例えば、平成30年度の完成が予定されている天城北道路の月ヶ瀬インターに計画している道の駅には、自転車ステーションを設置したいと考えています。

このような中、自転車による地域活性化、定住・交流の持続的な拡大を図ることを目指し、平成29年3月に「伊豆市自転車まちづくり基本計画」を策定しました。

本計画では、自転車やサイクルスポーツを市民にとって身近なものにしていくために、子供から高齢者までが自転車に触れる機会を増やすことで、自転車文化の形成、ルール・マナーの周知を図っていきます。また、観光協会や商工会とも連携しながら、観光客やサイクリストが自転車を楽しむことができる環境を構築し、本市の主要産業である観光の強化を図ります。本計画を進めるにあたり、行政だけでなく、市民や事業者の皆様との協力のもとに取り組んでいく所存ですので、どうぞご支援、ご協力をお願いします。

結びに、本計画の策定にお力添えをいただきました「伊豆市自転車まちづくり計画策定委員会」の各委員の皆様をはじめ、数多くの貴重なご意見をいただきました市民の皆様に、心から感謝申し上げます。

平成29年3月

伊豆市長 菊地 豊



目次

1 「伊豆市自転車まちづくり基本計画」について.....	1
1.1 背景と目的	1
1.2 本計画の「第2次伊豆市総合計画」への位置づけ	2
1.3 計画の対象地域	3
1.4 計画の期間	3
1.5 様々な顔を持つ自転車	4
2 伊豆市と自転車.....	5
2.1 豊富な地域資源を持った歴史ある観光地	5
2.2 観光の状況	6
2.3 伊豆市の現状	7
2.4 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地 ..	8
2.5 伊豆市とサイクルスポーツ	8
2.6 伊豆市とサイクルツーリズム	9
3 伊豆市自転車まちづくりの将来の姿と基本方針.....	10
3.1 将来の姿	10
3.2 基本方針	11
自転車ネットワーク計画.....	24
4 自転車まちづくりの進め方.....	37
4.1 推進体制の構築	37
4.2 進捗確認	38
5 アクションプラン.....	39
参考資料.....	42
伊豆市自転車まちづくり計画策定委員会における審議の経過 ...	42
伊豆市自転車まちづくり計画策定委員会 委員名簿	43
東京2020大会前後の追加項目	44

1 「伊豆市自転車まちづくり基本計画」について

1.1 背景と目的

伊豆市では日本サイクルスポーツセンター（以下、C S C）を中心として、国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン伊豆ステージ」や同時開催の「サイクルフェスティバル伊豆」をはじめ「伊豆半島一周サイクリング」の定期開催などを通じて、自転車スポーツ・レジャーの聖地としての地域イメージづくりに取り組んできました。

このような中、2021年に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における自転車競技（トラック・レース、マウンテンバイク）が開催されたことで、会場となった国内有数のサイクルスポーツ・レジャーの拠点であるC S Cの存在と併せ、自転車をテーマとする地域づくりを進めていく上で、他に類を見ない有力な資源、機会を得たこととなります。

この好機を捉え、国内はもとより世界に向けて、単に愛好家たちの誘致に止まらない、定住・交流の持続的な拡大に向けた積極的な地域マーケティングの推進が求められています。

全国を見ると、近年、自転車レーン等の自転車通行空間の整備が進められているほか、都市部を中心にサイクルシェアリングの導入も進められており、観光面では自転車で地域の観光資源を巡るサイクルツーリズムの人気も高まっています。また、平成28年12月には「自転車活用推進法」が公布されるなど、環境面、健康面といった自転車が持つ様々なメリットが着目され、自転車への注目が高まっています。

一方で、伊豆市においては、まだ市民とサイクリストのかかわりは薄く、サイクリストに寛容な市民意識を持ち合わせているとは言えない状況にあります。また、山がちで起伏が激しく、自転車が利用しにくい地形であることから、市民の自転車利用は少なくなっています。しかし、サイクリストは年を追うごとに増加していくことが想定され、市民意識の変革が喫緊の課題となっています。

このような背景を踏まえ、本計画では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、市民の自転車に対する理解を深めるとともに、伊豆市を訪れるサイクリストや一般の観光客や市民に対して、自転車を軸として地域の魅力を高め、地域活性化、定住・交流の持続的な拡大を図ることを目指します。

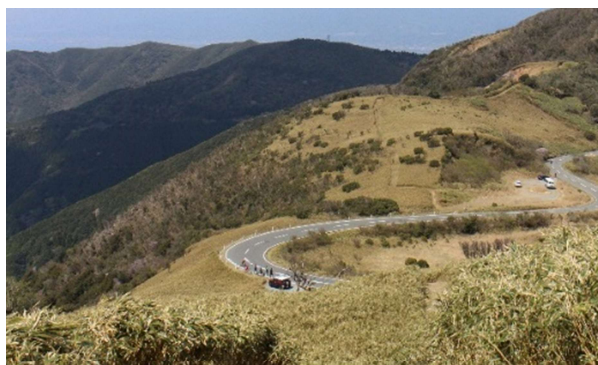


写真 絶景が魅力の達磨山のサイクリング

1.2 本計画の「第2次伊豆市総合計画」への位置づけ

本市では、「第2次伊豆市総合計画（後期基本計画）」において、6つの重点目標を掲げており、自転車まちづくりにより、主に「産業力の強化」の重点目標に対応することとします。

第2次伊豆市基本計画（後期基本計画）の6つの重点目標

- 重点目標1 少子化対策と次代を担う人材の育成
- 重点目標2 安全で心地よい生活環境の創出
- 重点目標3 産業力の強化
- 重点目標4 まちへの誇りの醸成とブランド力の向上
- 重点目標5 魅力あふれる拠点の創造と交通体系の確保
- 重点目標6 将来にわたる安定的な行財政運営の堅持

重点目標3 産業力の強化

政策1 地域の魅力の創造「地域産業の発展による市内経済の活性化」

施策1 東京2020大会を契機としたレガシーの継承

【本市の現状】

- ◎東京2020大会自転車競技（トラックレース／マウンテンバイク）の開催地であり、会場である日本サイクルスポーツセンターがある
- ◎伊豆半島1周サイクリングやライド&ライド伊豆狩野川などの自転車を取り巻く環境がある
 - ・市内にサイクルショップや自転車まちづくりの核となる拠点が無い
 - ・矢羽根などの整備をしているものの自転車に安全に乗る環境整備が不十分

【市民と共有したいありたい姿】

- ◎市民が日常的に自転車を利用し、楽しんでいる
- 市民や観光客移動手段に自転車が日常的に活用され、サイクリストが集うまちとしても全国的に認知されている
- 東京2020大会後も自転車競技が行われ、にぎわいが生まれる

作戦1 オリパラ競技会場の聖地化

主な取組 東京2020大会“自転車競技会場の聖地化”
国内外の各種自転車競技大会への協力・開催
日本サイクルスポーツセンターの利用促進
マウンテンバイク練習コースの活用

作戦2 自転車を活用したまちづくり

主な取組 “サイクリストの拠点”整備
市民の自転車乗れる率100%に向けた取組の推進
自転車を活用したコンテンツ開発と販売
自転車を活用した健康づくりの推進
地域密着型自転車プロチームとの協働
自転車競技普及に向けた取組の推進

出典：第2次伊豆市総合計画（基本構想・後期基本計画） 令和3年10月発行

1.3 計画の対象地域

本計画では、伊豆市全域を対象とします。



図 伊豆市の位置

1.4 計画の期間

第2次伊豆市総合計画との整合を図り、計画期間を平成29～令和7年度（9年間）としています。なお、計画期間を前期と後期に分け、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後に中間評価・見直しを実施しました。

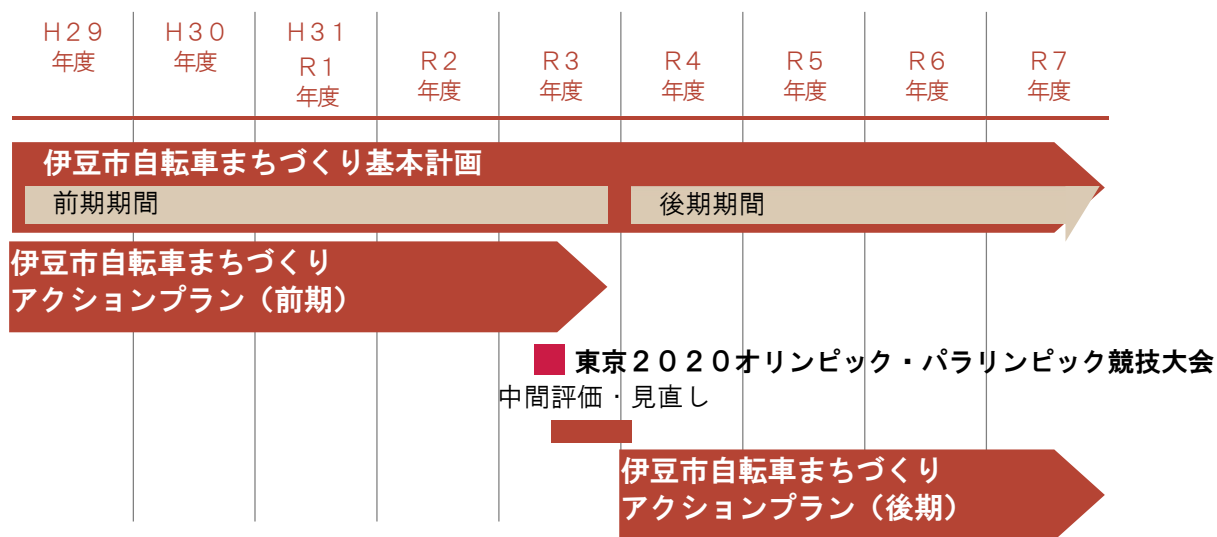


図 計画期間

1.5 様々な顔を持つ自転車

自転車は、通学や通勤等の日常の足としての利用から、週末のレクリエーションや健康づくりとしてのサイクリング、自分の自転車やレンタサイクルで地域を巡り、地域の風景や食を楽しむサイクルツーリズム、また、オリンピック・パラリンピックの公式競技としても採用され、国内外でプロツアーが行われているなど、スポーツの側面も持っているなど、単なる移動手段に留まらない様々な顔を持っています。

また、一言で自転車といってもその使い方により様々な車種があり、主に通勤・通学に使うシティサイクルや電動アシスト自転車、主にサイクルスポーツ等に使うロードバイクやトラックレーサー、また、2人以上が乗れるタンデム車、折りたたんで持ち運ぶことを主とした折りたたみ自転車など多くの種類の自転車があります。

本計画では、この様な自転車の多面的な利用の側面を捉えて、自転車まちづくりを進めていきます。

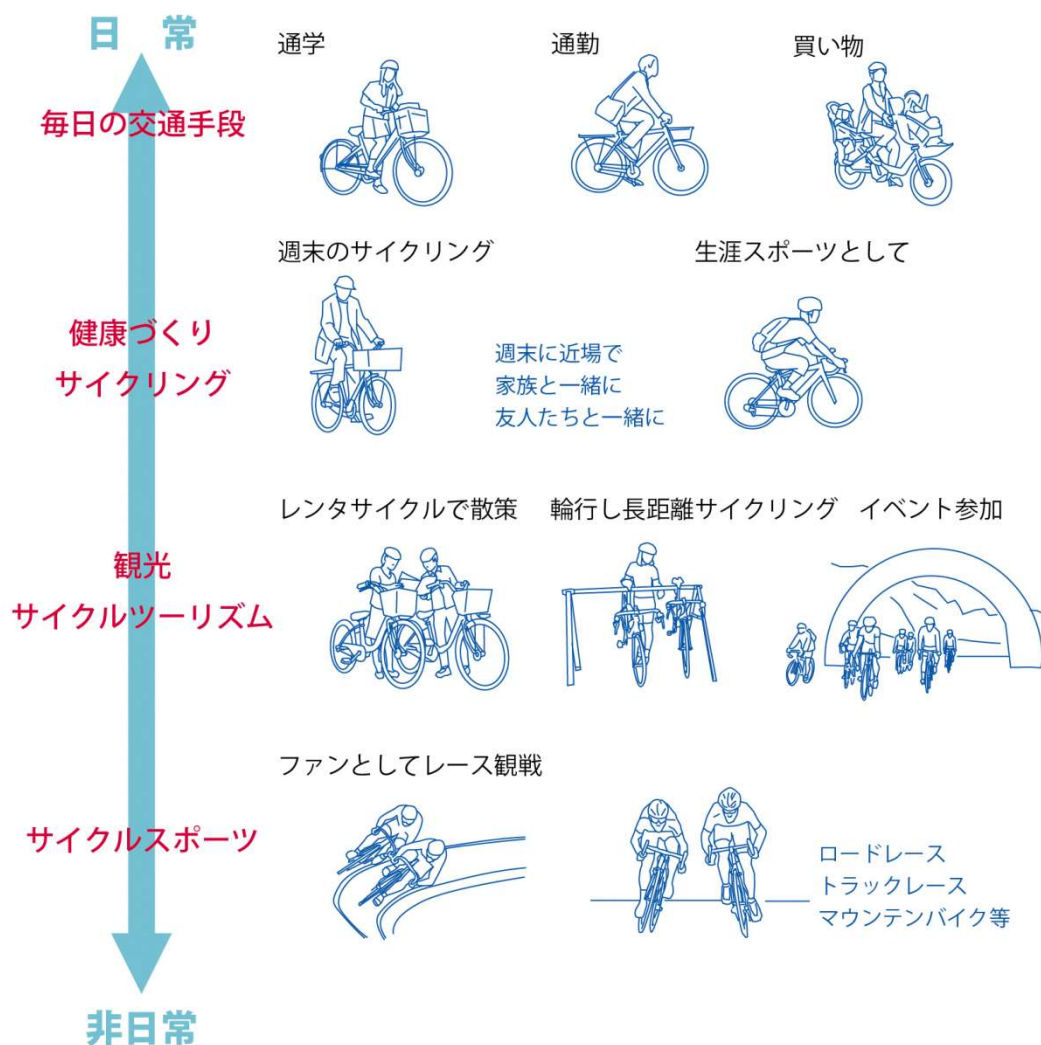


図 自転車の利用イメージ

2 伊豆市と自転車

2.1 豊富な地域資源を持った歴史ある観光地

伊豆市は伊豆半島の中心に位置した、海、森林、河川などの自然環境の豊かさ、大自然が創りあげた見事な景観、豊富な温泉、歴史・文学の舞台となった温泉街など、豊富な地域資源を持った観光地となっています。

また、多種多様な地場野菜や海産物の宝庫であり、清流を活かしたワサビや、「清助どんこ」のブランド名を持つシイタケ、地元で捕獲したシカを低温熟成により臭みがないイズシカといった特産品もあります。



図 伊豆市の主な観光スポット



ワサビ



椎茸



イズシカ

写真 伊豆市の特産品

2.2 観光の状況

伊豆市は、首都圏から2時間以内の距離にあり、平成26年には首都圏を中心に年間約340万人の観光客が訪れているものの、観光客数は長期的には減少傾向を示しており、20年間で約半分に減少しています。

一方で、来訪者アンケートからは、伊豆の温泉や自然が観光の中心的魅力として認識されています。

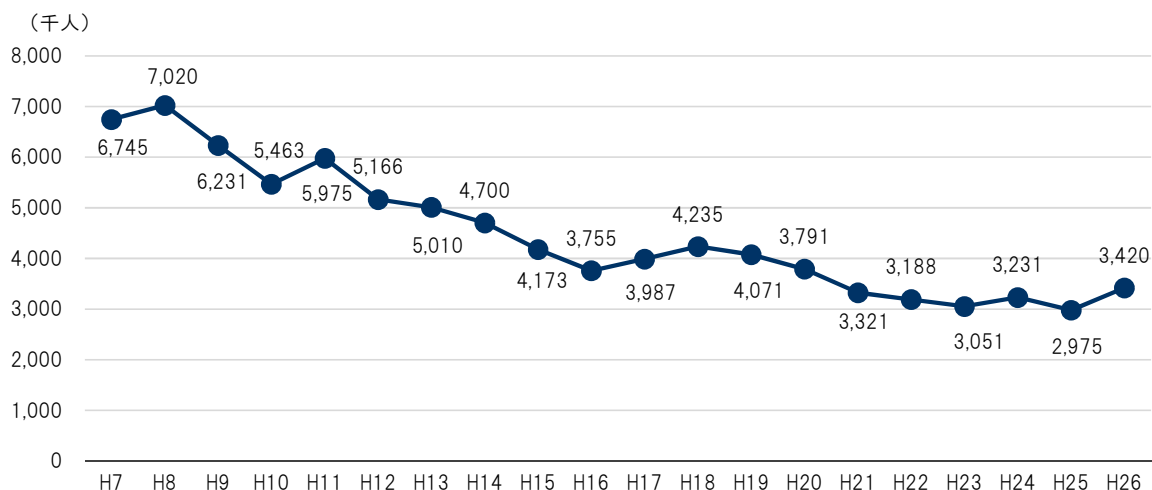


図 観光入り込み客数の推移

出典:伊豆市統計書(平成27年度版)

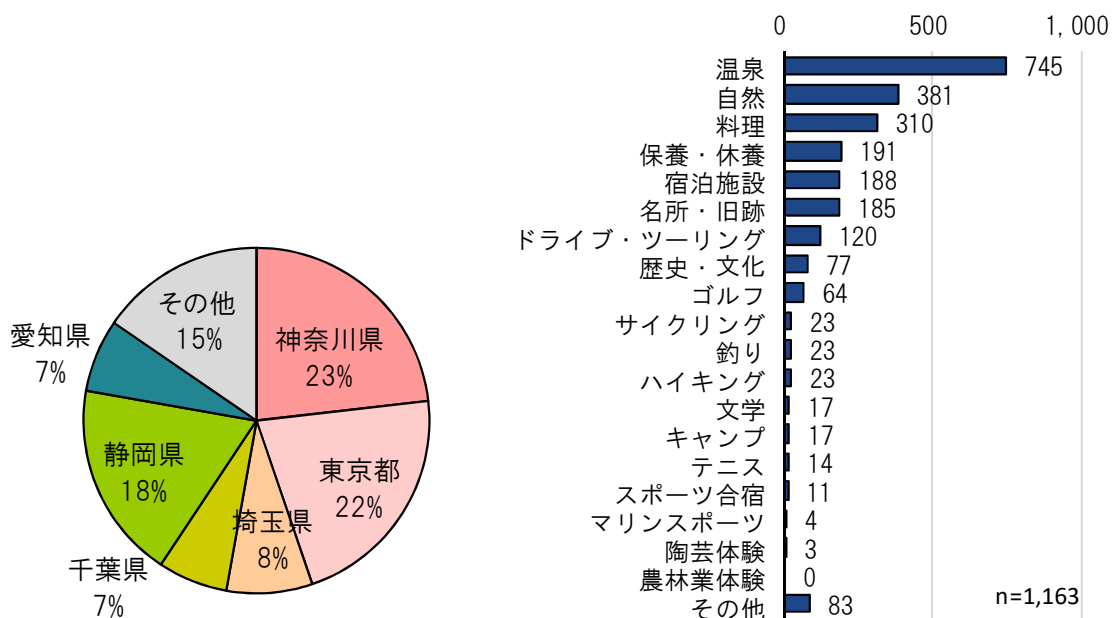


図 伊豆市への観光客の居住地

図 伊豆市を選んだ理由

出典:観光客アンケート(伊豆市実施)

2.3 伊豆市の現状

本市では人口減少とともに、少子高齢化も進み、平成27年の年少人口（0～14歳）は10.6%、約1割に対し、高齢者人口（65歳以上）は31.6%と3割を超えており、今後ますますその傾向が進むことが予想されています。

また、山がちな地形であることから、自動車での移動が中心となっており、自転車の利用率は2%と静岡県内でも低くなっています。健康面では、メタボリックシンドローム該当者の割合が増加傾向であるとともに静岡県よりも高く、生活習慣病による死亡率も、全国や静岡県よりも高くなっています。

自転車を利用することで、市民が体を動かすことによる生活習慣病の予防、健康増進に対する効果も期待されます。

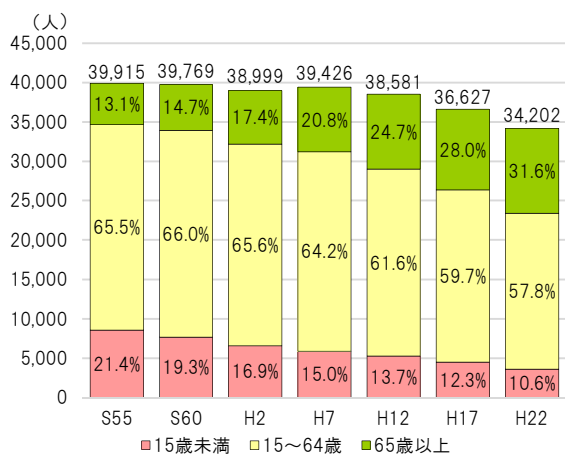


図 伊豆市の人口推移

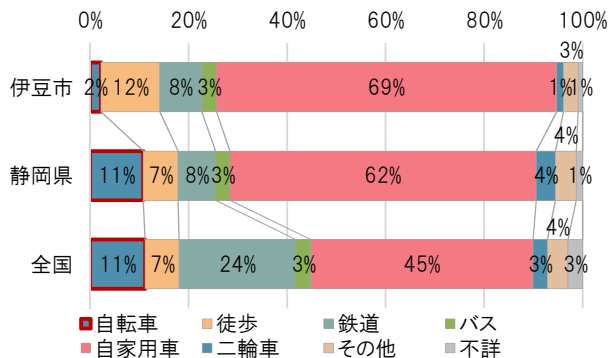


図 通勤・通学時の代表交通手段

出典: 平成22年国勢調査

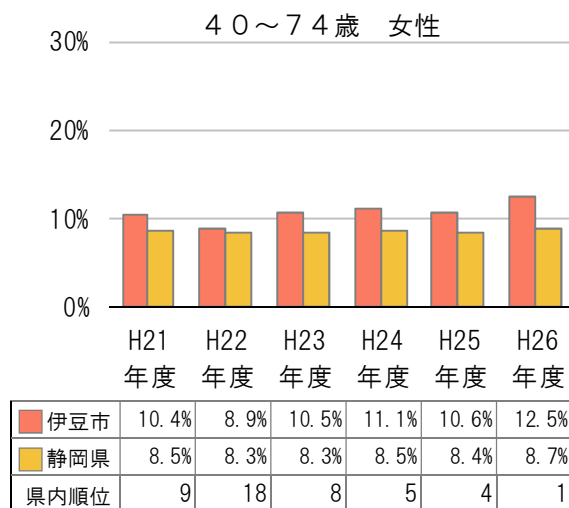
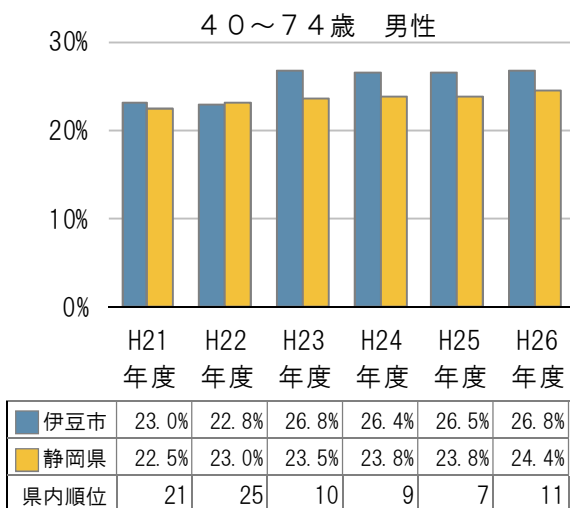


図 メタボリックシンドローム該当者の割合

出典: 静岡県国民健康保険団体連合会

2.4 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地

令和3年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、自転車競技（トラック・レース、マウンテンバイク）が、伊豆ベロドローム及び伊豆マウンテンバイクコース（いずれもCSC内施設）で開催されました。



写真 伊豆ベロドローム



写真 マウンテンバイクの競技風景

2.5 伊豆市とサイクルスポーツ

伊豆市では、サイクルスポーツ専用ロード、ピスト競技場、その他諸施設を完備した、サイクルスポーツのための総合施設であるCSCがあることから、多くのサイクルスポーツの全国大会や国際大会が行われています。

平成28年度は、UCIアジアツアー2.1にカテゴライズされる自転車ロードレースのツアー・オブ・ジャパン伊豆ステージや2016アジア自転車競技選手権大会のトラック・レース、パラサイクリングが開催されました。

一方で、CSCが市の中心部から離れていることなどから、市民へのサイクルスポーツの浸透度が低いことが課題となっています。



写真 ツアー・オブ・ジャパン伊豆ステージ



写真 2016アジア自転車競技選手権大会

2.6 伊豆市とサイクルツーリズム

伊豆市ではサイクルスポーツのみでなく、サイクリングイベントである伊豆半島一周サイクリング(伊豆いち!)やサイクルフェスティバル伊豆といったイベント、天城湯ヶ島でのレンタサイクル、伊豆箱根鉄道のサイクルトレインや東海バスの自転車積載バス、バイクラックの設置など、サイクルツーリズムに関する多くの取り組みが行われています。

平成28年度には、修善寺駅前、修善寺温泉場にステーションを設置し、20台の電動アシスト自転車の貸出を行うサイクルシェアリング「i z u v é l o」の社会実験を実施し、利用者アンケートからは高い満足度を得られています。

また、伊豆市内のみでなく、狩野川周辺サイクル事業推進協議会や美しい伊豆創造センターと連携し、広域的な取り組みも実施しています。



写真 伊豆半島一周サイクリング



写真 「i z u v é l o」の社会実験の様子

Amagi Cycling

イタリアメーカーの自転車にアソビに乗って天城をぐるりとサイクリング!

Bianchi

2017年5月17日

① ノーマルプラン(レンタルのみ) 2,000円
 ② 有代付きプラン 3,600円
 ③ 昼食 BBQ 付プラン 4,000円
 ④ レンタサイクルスペシャルプラン(昼食+ガイド+α) 7,000円

伊豆市観光協会天城支店 レンタサイクル係
 TEL. 0558-85-1056
 〒410-3208 静岡県伊豆市湯ヶ島176-2

図 天城湯ヶ島でのレンタサイクル

伊豆箱根鉄道 Seibu Group

サイクルトレイン実証実験について

2016年12月1日(木)～2017年3月31日(金)

下り 三島駅発 9時00分発～14時53分発
 上り 修善寺駅発 9時02分発～14時58分発

対象列車
 下り 三島駅発 9時00分発～14時53分発
 上り 修善寺駅発 9時02分発～14時58分発

伊豆箱根鉄道 伊豆箱根鉄道 伊豆箱根鉄道

お問い合わせ 伊豆箱根鉄道 鉄道部 ☎055-977-1207

図 伊豆箱根鉄道によるサイクルトレイン

3 伊豆市自転車まちづくりの将来の姿と基本方針

3.1 将来の姿

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催のレガシーを活かし、市民と来訪者が自転車を利用する、自転車を軸としたまちづくりを進めます。

伊豆市の特徴であるCSCや温泉、旅館を中心として、市民、観光、サイクルスポーツの視点からそれぞれの将来の姿を掲げ、その実現に向けて取り組んでいきます。

CSCとの連携 伊豆市の強みであるCSCの存在を最大限に活用し市民やサイクリストへの啓発を図るとともに、観光の面においてもCSCと連携しながらサイクルツーリズムを積極的に推進します。

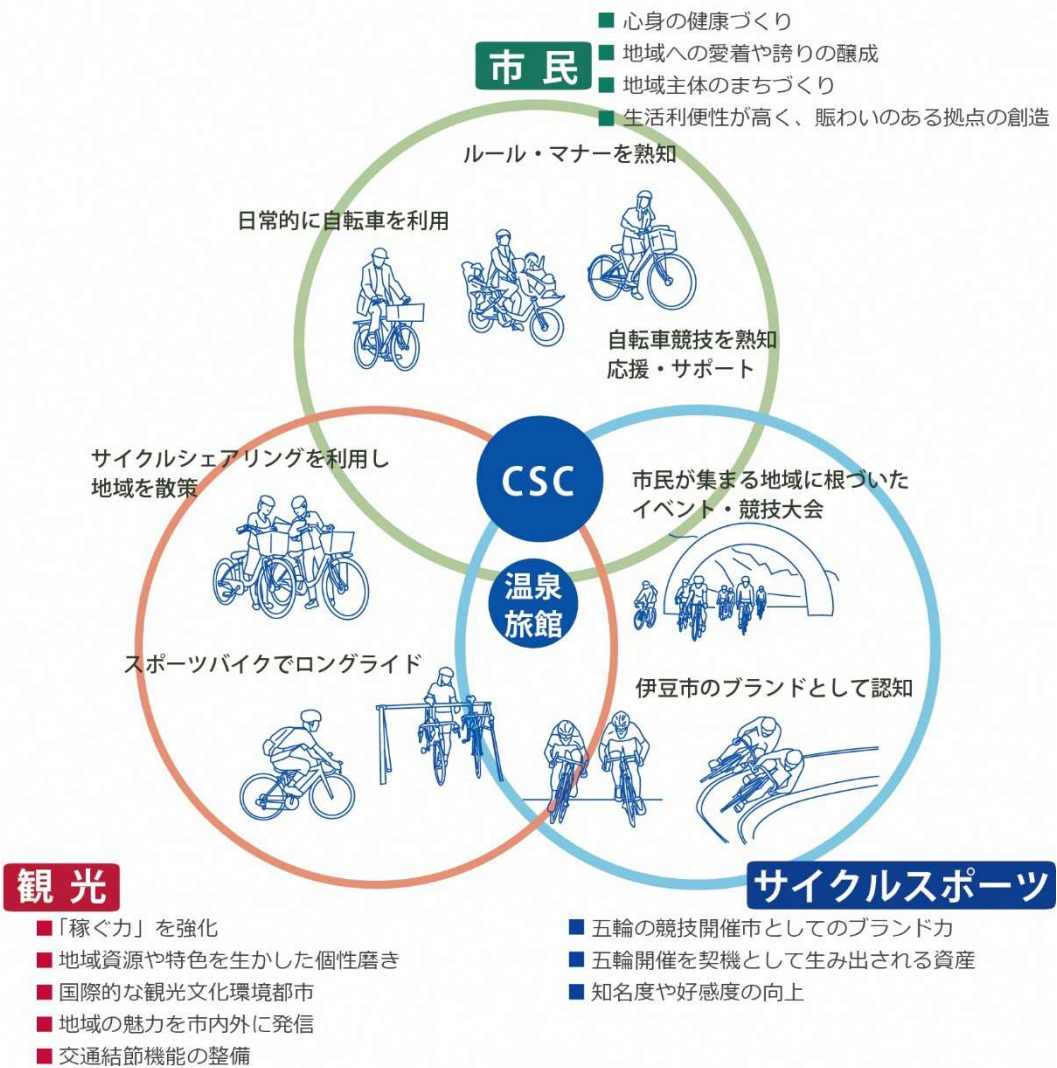


図 伊豆市の自転車まちづくりによる将来の姿

3.2 基本方針

自転車まちづくりの将来の姿を実現するための課題から、以下の3つの基本方針を設定しました。

これらの基本方針に基づき、実施施策に取り組んでいきます。

基本方針1 市民への自転車の浸透 **市民** **サイクルスポーツ**

- アジア有数のサイクルスポーツ施設であるCSCとの連携により、自転車やサイクルスポーツを市民にとって身近なものにしていきます。

基本方針2 受け入れ体制の整備 **観光**

- 伊豆市内の自転車の拠点を中心に、旅館や観光施設等と連携しながら、観光客やサイクリストが伊豆市で自転車を楽しむことができる環境を構築していきます。

基本方針3 情報発信の強化 **観光** **サイクルスポーツ**

- 市民や市内事業者、各種メディアとの連携により、国内外に向けて自転車と伊豆の情報発信を行い、伊豆市の知名度と好感度を高めていきます。



現在直面している課題

市民

- 健康増進に向けた日常的な運動の促進
- 市民とCSCやサイクルスポーツとの関わりを強化
- 安全な自転車通行環境の整備

観光

- 旅館や観光施設等の自転車の受け入れ体制の強化
- 通行環境や駐輪施設、サイクルシェアリング等の自転車の利用環境の整備
- 自転車を活用した観光振興の推進

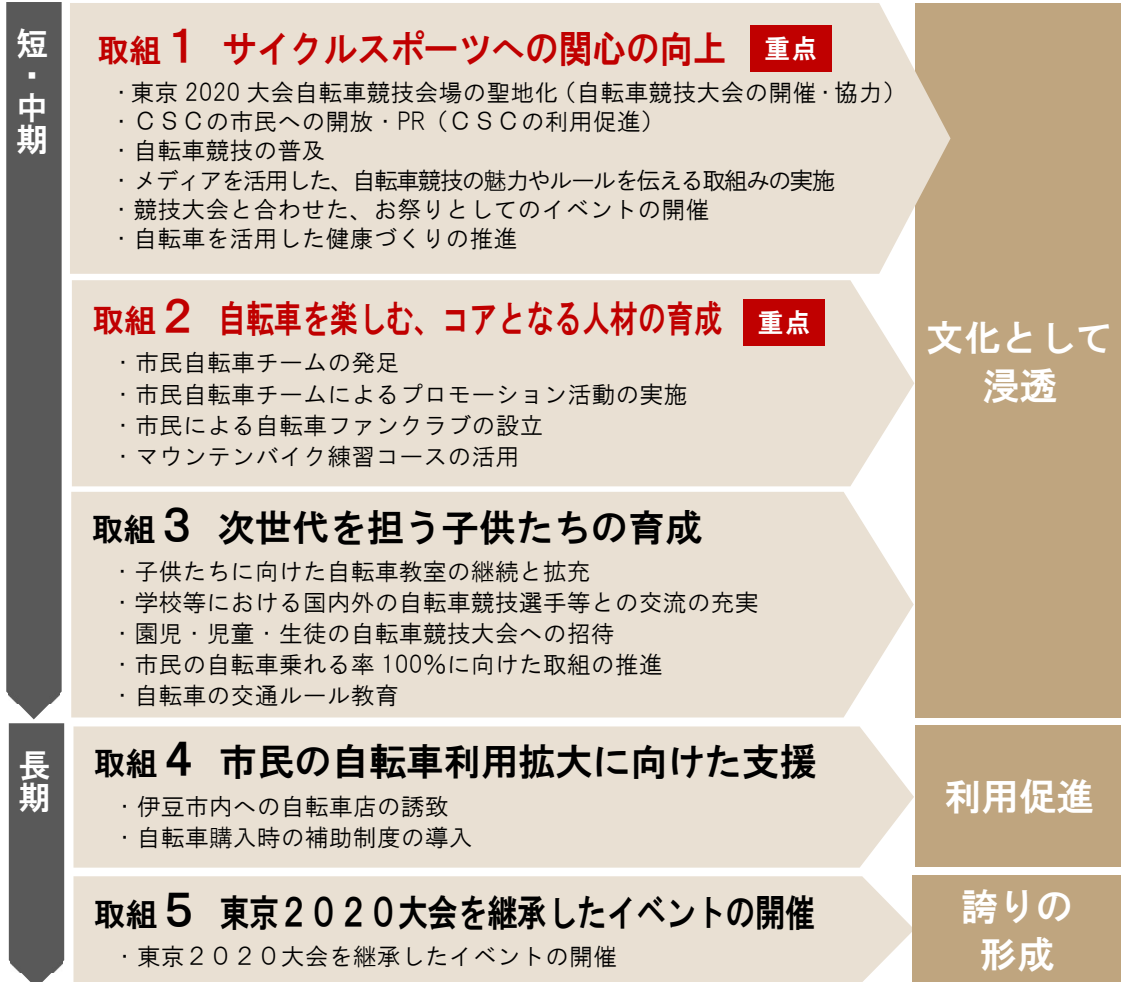
サイクルスポーツ

- 東京2020大会の開催成果の継承、CSCの存在を活かしたブランド力の強化
- 市民のCSCやサイクルスポーツへの関心の向上

基本方針 1 市民への自転車の浸透

自転車やサイクルスポーツを市民にとって身近なものにしていくために、CSCや学校等と連携した自転車と接する機会の充実や市民自身による活動への支援、市民のルール・マナーの向上に向けた取り組み等を行っていきます。

実現に向けた取組



取組を検証する指標

	現状値	目標値(R7)
CSCの市民への開放回数	現状値 —	目標値 4回/年
市民自転車チームの発足	現状値 —	目標値 発足
自転車ファンクラブの登録者数	現状値 —	目標値 300人

取組の方向性

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催のレガシーを活かし、CSCとの連携により、市民が日常的に楽しめる場としての魅力向上などを通じて、市民のサイクルスポーツに対する関心を高めます。

実施施策

○ 東京2020大会自転車競技会場の聖地化（自転車競技大会の開催・協力）

レガシー創出に向けた取組として、国内外の各種自転車競技大会への協力・開催や市民利用を一層促進する取組など、県やCSCと連携した活性化に努めます。東京2020大会が開催されたCSCを最大限活用し、機運の高まりを継続させる事業への協力を行います。

○ CSCの市民への開放・PR（CSCの利用促進）

CSCは国内有数のサイクルスポーツ・レジャーの拠点であるものの、サイクルスポーツに対する市民の関心が低い状況にあるため、日常的に楽しめる場としてベロドロームを開放するなど、市民にとってCSCが身近な施設となるように取り組みを進めます。

○ 自転車競技の普及

日本競輪選手養成所と連携し、見学会や練習会場提供などの施策を推進し、ファンや競技人口の裾野拡大を広げ、自転車競技（トラック・ロード・MTB・BMX）を普及させます。

○ メディアを活用した、サイクルスポーツの魅力やルールを伝える取り組みの実施

市民のサイクルスポーツへの関心を高めるため、市の広報誌、FMIS等と連携し、サイクルスポーツの魅力やルールを伝える連載等を掲載します。

○ 競技大会と合わせた、お祭りとしてのイベントの開催

自転車競技大会の開催と合わせて、より多くの市民に足を運んでもらい、自転車と触れる機会を提供できるように、バザーや食などを楽しめるお祭りとしてのイベントを開催します。

○ 自転車を活用した健康づくりの推進

市民向けにCSC、JKAと共に生活習慣病の予防、自転車の運動効果による健康増進事業を展開します。

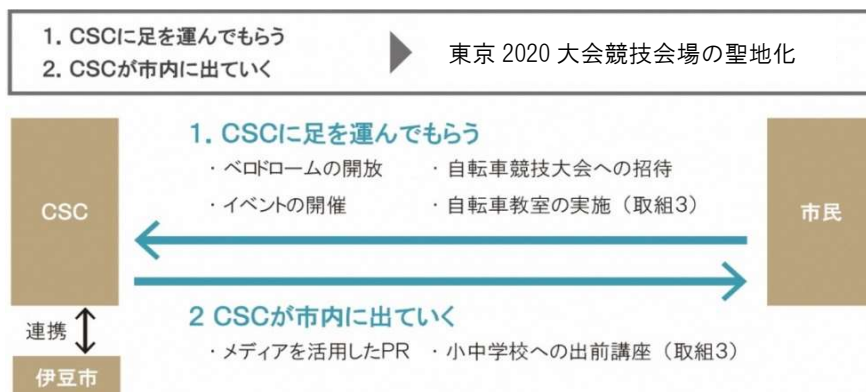


図 サイクルスポーツの機運醸成に向けたCSCの取り組みイメージ

取組の方向性

行政や観光協会、観光産業の関係者はもとより、市民と連携しながら、自ら自転車を楽しむとともに、自転車まちづくりの担い手となる人材の発掘・育成を進めていきます。

実施施策

○ 市民自転車チームの発足

東京2020大会に向けた市民の機運醸成と市内外に向けた伊豆市自転車まちづくりのPRを図るため、市民の自転車愛好家と連携し、自転車チームを発足します。

○ 市民自転車チームによるプロモーション活動の実施

伊豆市の認知度やブランドイメージの向上のため、オリジナルユニフォームによる他地域のイベントへの参加や情報発信を通じて、自転車まちづくりのプロモーション活動を行います。

○ 市民による自転車ファンクラブの設立

自転車まちづくりの市民への浸透や日常の自転車利用の促進を図るため、市民による自転車ファンクラブを設立し、登録者数を増やしていきます。

○ マウンテンバイク練習コースの活用

CSC付近にある、静岡県が市有林を活用して整備したオリンピック選手向けマウンテンバイク練習コースを有効活用します。

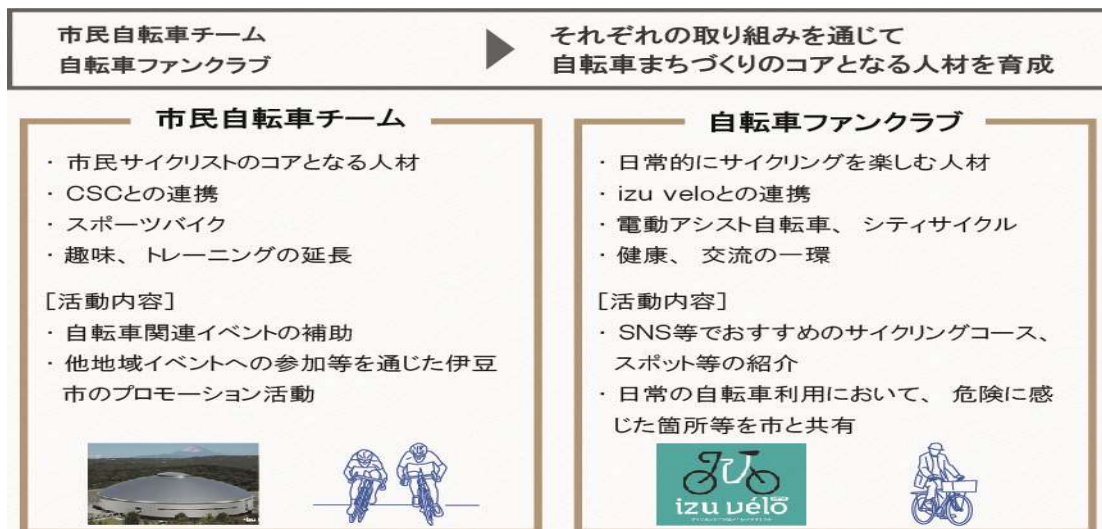


図 市民自転車チームと自転車ファンクラブの活動イメージ

取組の方向性

自転車に関する取り組みを進めていくためには、市民の理解・協力が重要となるため、CSCや学校等との連携により、特に次世代を担う子供たちへの自転車と接する機会の充実により、自転車文化やルール・マナーの浸透を図ります。

実施施策

○ 子供たちに向けた自転車教室の継続と拡充

現在、CSCでは小学生のための自転車教室を定期的には開催していますが、今後はより一層力を入れて取り組みを進めるために、市と連携し、自転車教室の継続と拡充を図ります。

○ 学校等における国内外の自転車競技選手等との交流の充実

東京2020大会の開催に向けて、国内外から多くの自転車競技選手が伊豆市を訪れることが想定されます。その機会を利用し、子供たちのサイクリスポーツへの関心を高めるため、CSCと学校との連携により、国内外の自転車競技選手による小中学校への出前講座等を実施します。

○ 園児・児童・生徒の自転車競技大会への招待

子供たちを対象に東京2020大会に向けた機運醸成を図るため、CSCと連携し、ベロドロームで開催される大会への招待や大会後の選手との交流機会の提供などを実施していきます。

○ 市民の自転車乗れる率100%に向けた取組の推進

小学生向け自転車乗り方教室、未就学児向けランニングバイク出前教室を継続して、市民誰もが自転車に乗れるようになることを目指します。

○ 自転車の交通ルール教育

啓発活動やイベント等を実施することで、自転車の交通ルール・マナーを周知し、自転車安全利用の意識向上を図ります。



写真 伊豆ベロドロームで開催された自転車教室「ウィーラーズクール」の様子
(平成29年3月開催)

取組 4 市民の自転車利用拡大に向けた支援

短・中期

長期

取組の方向性

市民の日常生活での自転車利用を促進するため、市民に対して自転車を購入しやすい環境を提供する等の施策を推進し、市民の自転車乗車率 100%を目指します。

実施施策

○ 伊豆市内への自転車店の誘致

現在、伊豆市内に自転車を販売する専門の店舗がほとんどなく、シティサイクルやロードバイク等の自転車の購入や修理点検等ができない状況にあるため、専門の自転車店を誘致します。

○ 自転車購入時の補助制度の導入

市民の自転車購入を促すため、自転車購入時の補助制度を検討し、導入を進めます。

	自転車店舗数※
伊豆市	1
伊豆の国市	5
三島市	13
函南町	4

現在、伊豆市の自転車店舗数は、周辺市町に比べて少ない状況にある。

※ i タウンページ (<https://itp.ne.jp>) において「自転車店」で検索した件数

図 伊豆市及び周辺市町の自転車店舗数

取組 5 東京 2020 大会を継承したイベントの開催

短・中期

長期

取組の方向性

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催機運の高まりを継続するために、当該大会のレガシーとして地域に根付いたイベントを育成します。

実施施策

○ 東京 2020 大会を継承したイベントの開催

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー大会への支援と協力を行うとともに、大会と連動して「サイクルフェスティバル」などの自転車に関するイベントの開催を検討し、地域に根づいた伊豆市を代表するイベントとして育成します。

基本方針 2 受け入れ体制の整備

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地としてのステイタスを効果的に活用し、国内外からの観光客やサイクリストの来訪を促進します。

そのため、サイクリストだけでなく、より多くの方が自転車で伊豆を楽しむことができるように、拠点やサイクルシェアリング、受け入れ体制の充実を図っていきます。

実現に向けた取組



取組を検証する指標

	現状値	目標値(R7)
ガイドサイクリング向けモデルコース数	現状値 ー	目標値 6コース設定及びマップ作成
サイクルシェアリングの拠点数	現状値 2ヶ所	目標値 9ヶ所
自転車受け入れ旅館の割合	現状値 ー	目標値 80%

取組の方向性

サイクルシェアリングの利用を対象とした観光客向けの短距離コースから、広域観光・サイクリングを楽しむことを目的としたサイクリスト向けの中長距離コースまで、多様なコースづくりを行います。

また、コースづくりそのものをサイクリングのプロモーション活動として捉え、メディアや市内外のサイクリストと連携しながらコースづくりを行います。

実施施策

○ テーマやストーリー等の設定によるコースづくり

有名選手のトレーニングコースや歴史・文学と絡めて、「道」そのものを観光資源として捉え、コースづくりを行います。

○ コースづくりとあわせたプロモーションの実施

雑誌・ウェブメディア等との連携によるプロモーションを兼ねて、市外の方（著名な自転車愛好家等）を招待して実際に伊豆市内を走行してもらい、コースづくりを行います。その際に、「西伊豆スカイラインから見る富士山」など伊豆市の素晴らしい景観をコースに組み込むなど、伊豆市の魅力を積極的に伝えていきます。

○ サイクリングマップの作成

観光客やサイクリストに利便性の高い情報を提供し、自転車観光の振興、回遊性の向上等を図るために、サイクリングマップを作成します。

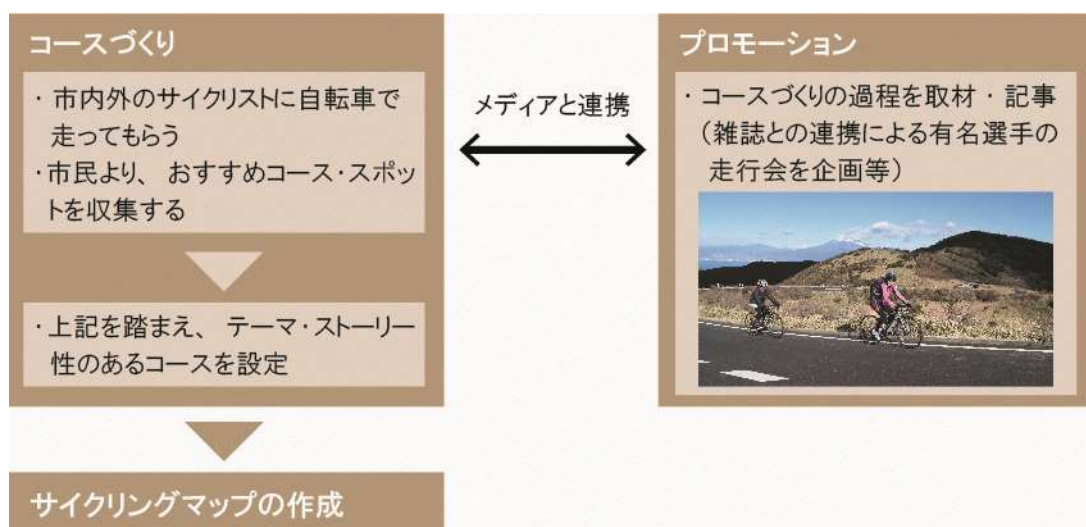


図 プロモーションを兼ねたコースづくりのイメージ

取組の方向性

9つの自転車の拠点の整備を進めます。また、東京2020大会自転車競技会場の最寄り駅となった修善寺駅周辺で、自転車利用の拠点を整備し、地元ガイドサイクリストによる自転車ツアーの企画等、サイクリストの聖地を目指しながら、地域との融合を図っていきます。

実施施策

○ 自転車の拠点整備（サイクリストの拠点整備）

安心して自転車を楽しんでもらうため、一定規模以上の駐車場を有した施設や鉄道駅等の拠点施設を中心として、自転車利用者のニーズを満たす高い水準の機能を持つ施設を整備します。

サイクリストの交流・宿泊などの拠点となるゲストハウスの整備を支援するとともに、自転車を市民の生活や文化に根付かせる取組を推進します。

○ サイクルシェアリングのサービス拡充

レンタサイクルをはじめ、自転車利用環境の拡充を目指します。

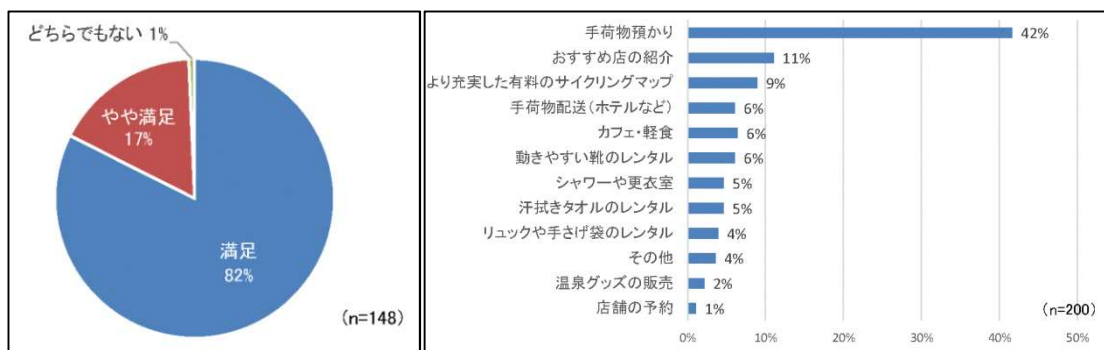


図 サイクルシェアリングの満足度

図 あれば便利と思うサービス

出典：サイクルシェアリングの社会実験におけるアンケート調査結果より作成（H28 伊豆市実施）

自転車の拠点

- サイクルシェアリングやサイクリスト等の自転車利用者向けのサービスを備えた自転車の拠点9箇所を市内全域に整備します。
- 各拠点はサイクリングの起終点としての役割を担い、特に「修善寺駅前」と「道の駅伊豆月ヶ瀬」は核となる施設として機能の充実を図ります。
- 公共交通との連携では、「修善寺駅前」は鉄道との連携、「松原公園」はフェリーとの連携拠点としての役割を担います。



表 核となる施設の役割と必要な機能

名称	役割	必要機能(案)
修善寺駅前	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道から自転車への乗り換えが可能で、コインロッカーやサイクルシェアリングを有する施設 ● サイクリングの起終点となる施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐輪ラック、トイレ、ベンチ、軽飲食販売、空気入れ、修理工具貸出、作業スペース、<u>サイクルシェアリング</u>、<u>コインロッカー</u>、<u>荷物搬送</u>、<u>自転車搬送</u>、マップ、パンフ等
道の駅伊豆月ヶ瀬	<ul style="list-style-type: none"> ● 一定規模以上の駐車場を有し、クルマから自転車への乗換えが可能な施設 ● サイクリングの起終点となる施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>駐車場</u>、駐輪ラック、トイレ、ベンチ、軽飲食販売、空気入れ、修理工具貸出、作業スペース、<u>シャワー</u>、<u>更衣室</u>、マップ、パンフ等

※下線部は各施設特有の機能

取組の方向性

旅館等と連携し、部屋への自転車の持ち込みサービスや工具の貸し出し等に加え、自転車の扱いや簡単な修理に対応できるよう、従業員の理解やスキルアップ講座の開催等により、宿泊者に対する自転車の受け入れ体制の充実を図ります。

実施施策

○ 旅館等におけるサイクルシェアリングの貸出・返却

観光客にシームレスな自転車利用環境を提供するため、サイクルシェアリングの貸出・返却に対応した旅館等を増やしていきます。

○ 旅館等における自転車の持ち込み・預かり等サービスの普及

サイクリストが安心して個人の自転車を利用できる環境を実現するために、旅館等と連携し、自転車の部屋への持ち込み、室内での預かりサービス等の充実を図ります。

○ 従業員に向けた自転車の取り扱い等の講座の開催

CSCと連携し、旅館等の従業員に自転車の取り扱いに関する知識を取得してもらうことを目的として、自転車の取り扱い講座を開催します。



図 旅館等における自転車利用者に向けたサービスのイメージ

取組の方向性

観光施設や観光に関わる事業者、交通事業者等との連携により、自転車利用者へのサービスの充実を図ります。

実施施策

○ 観光施設等への駐輪スペース・バイクラック等の設置

伊豆市では観光施設等への駐輪スペース・バイクラックの設置を進めており、引き続き全市への普及を図ります。さらに、自転車利用者の満足度を高めることによるリピーターの獲得に向けて、観光施設等と連携し、空気入れ・簡単な工具等の貸出しに対応した施設を増やしていきます。

○ 鉄道・バスの輸送環境・サービス向上に向けた取り組みの充実

現在、伊豆箱根鉄道の自転車持ち込みサービス、東海バスのサイクルラック付きバスなどの取り組みを進めていますが、今後も公共交通と連携することにより、輸送しやすい環境の整備を進めます。

○ 道の駅等への自転車利用者向けの駐車場の整備

自動車で来訪したサイクリストが、安心して自動車を長時間駐車できるとともに、自転車を組み立てる場所に困らないように、道の駅等を対象に、作業や着替え等ができる施設の整備を進めます。

○ 自転車のトラブルに対応したレスキューサービスの提供

自転車利用者が安心してサイクリングを楽しめるように、パンク時のレスキューサービス等を検討し、導入を進めます。

○ 自転車を活用したコンテンツ開発と販売

市内ガイドサイクリスト、伊豆市産業振興協議会と共にサイクリングコースのコンテンツ開発と商品化を目指し、今後の観光振興につなげます。

○ 地域密着型自転車プロチームとの協働

県内にあるサイクリングチームに協力いただき、自転車の魅力向上など自転車の素晴らしさを伝えながら市民と交流を図ります。

取組の方向性

自転車、自動車、歩行者が共有する道路空間の中で、自転車利用者がより安全に安心して通行することができるよう通行空間の整備に取り組むとともに、地域内を快適に回遊できるように誘導案内等の充実を図ります。

実施施策

○ サイクリングコース上の危険箇所への安全対策の実施

自転車関連事故を防ぐために、サイクルシェアリング社会実験のアンケートや市民から寄せられた意見等を参考に、危険箇所への安全対策を検討し、対策を進めます。

○ 案内サインの整備

サイクリングコースを初めて利用する人でも、迷うことなくサイクリングを楽しめ、目的地に到達できるように、コース上の交差点や迷いやすい箇所に案内サインを設置します。

○ 矢羽根の設置

自転車利用者の安全確保とコース案内を目的に、車道への矢羽根型路面表示の設置を進めます。将来的にはサイクリングコース全区間への設置を想定していますが、まずは自動車交通量の多い幹線道路や右左折のある交差点に対して優先的に設置します。

○ 自転車ネットワーク路線の整備

自転車通行空間整備のため自転車ネットワーク路線を選定します。

1. 伊豆市の観光資源や地域資源、起伏に富んだ地形を活かし、伊豆らしい魅力あふれた自転車ネットワーク
2. 新中学校自転車通学路や高校生の自転車通学等、特に安全に配慮すべきルート



写真 修善寺駅周辺の幅員が狭い区間



写真 狭い区間での矢羽根型路面表示（静岡県）

伊豆市自転車ネットワーク計画

伊豆市 自転車ネットワーク計画策定の基本的な考え方

伊豆市自転車ネットワーク整備に当たり、基本方針を以下の通りとする。

【基本方針】

「伊豆市の観光資源や地域資源、起伏に富んだ地形を活かし、伊豆らしい魅力にあふれた自転車ネットワーク」とする。

計画にあたっては、静岡県が整備を進める太平洋岸道自転車道や伊豆半島一周ルートを基軸（広域連携軸）とし、観光資源や地域資源へのアクセスや周遊ルートを地域連携軸として設定する。

また、新中学校自転車通学路や高校生の自転車通学など特に安全に配慮すべきルートについても選定する。

○自転車ネットワーク路線の選定方法

「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン 平成 28 年 7 月国土交通省道路局 警察庁交通局」（以下ガイドラインとする）では、以下の①～⑦の要件を適宜組み合わせて選定するものとしている。

- ① 地域内における自転車利用の主要路線としての役割を担う、公共交通施設、学校地域の核となる商業施設及びスポーツ関連施設等の大規模集客施設、主な居住地区等を結ぶ路線
- ② 自転写徒歩行者の錯綜や自転車関連の事故が多い路線の安全性を向上させるため、自転車通行空間を確保する路線
- ③ 自転車通学路の対象路線
- ④ 地域の課題やニーズに応じて自転車の利用を促進する路線
- ⑤ 自転車の利用増加が見込まれる、沿道で新たに施設立地が予定されている路線
- ⑥ 既に自転車の通行空間（自転車道、自転車専用通行帯、自転車専用道路）が整備されている路線
- ⑦ その他に自転車ネットワークの連続性を確保するために必要な路線

出典：ガイドライン P. 1-10

○選定要件の設定

伊豆市においては、ガイドラインの選定要件を踏まえつつ、伊豆市としての基本方針や道路利用状況を考慮した上で、以下に選定要件を設定する。

ガイドラインの要件番号	選定要件の置き換え
選定要件①	自転車の拠点と集客施設を示す
選定要件②	安全対策が必要である路線
選定要件③	自転車通学路の検討路線
選定要件④	自転車の利用を促進する路線
選定要件⑤	②と同じ
選定要件⑥	矢羽根型路面標示が設定されている路線
選定要件⑦	①②③④⑤⑥を踏まえ自転車ネットワーク路線を選定し、適宜抽出する

※選定要件⑤は、新中学校の施設立地を想定し選定要件②と同等とする。

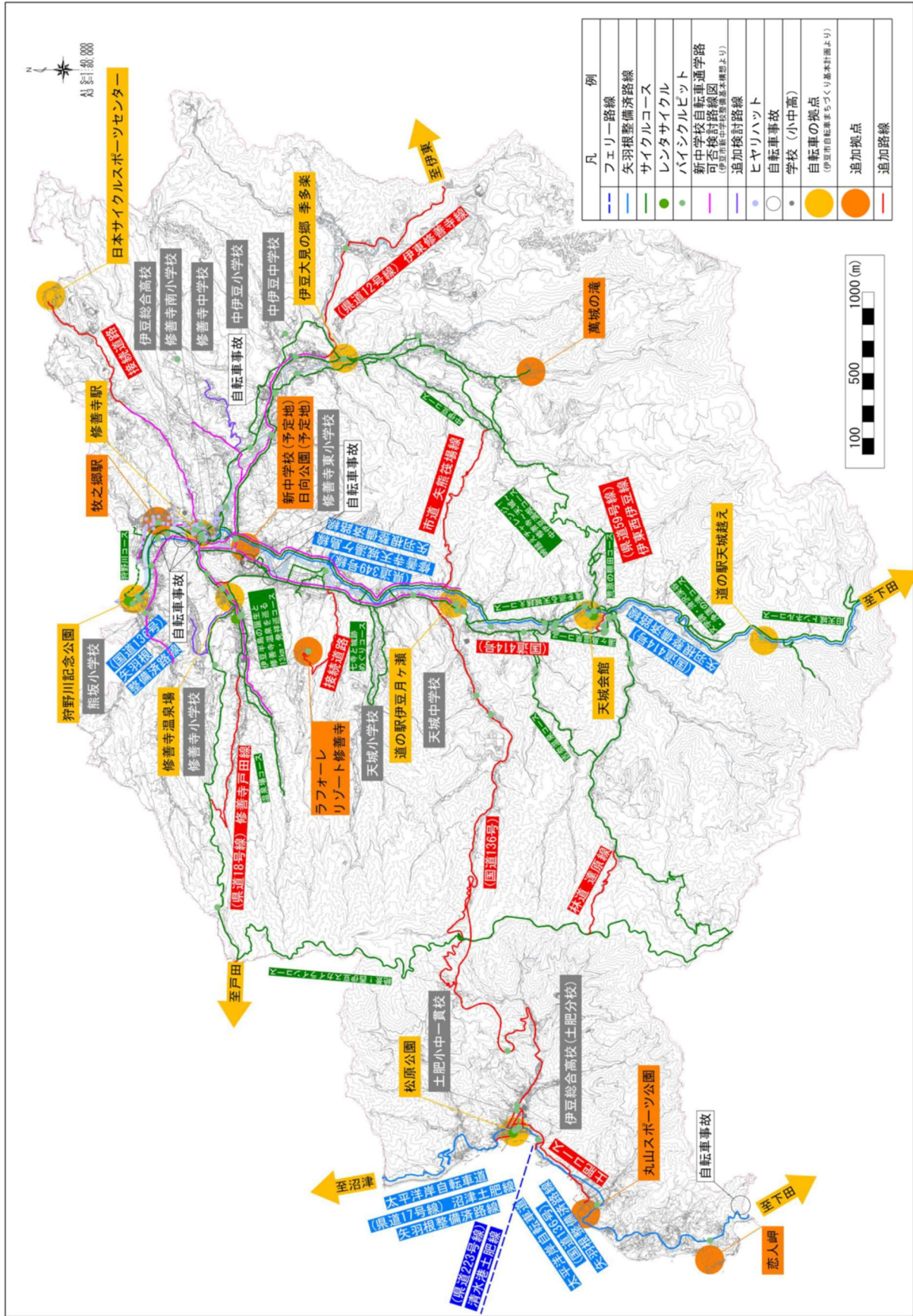
自転車ネットワーク候補路線

前項に示した選定要件を重ね合わせ、とりまとめにより整理した結果、選定要件の重なりが多くネットワークとして位置づける必要がある箇所と、要件の重なりが無く、ネットワークの充填が必要と判断される状況が明確となった。

この結果を基に「要件の重なりが多く見られる路線」、「要件の重なりが無くネットワークの連続性が求められる路線」並びに「安全対策が必要とされる路線」を選定する。

国道	136号		市道	姥金深沢日陰線
	414号			大城線
県道	12号線	伊東修善寺線		大野中ノ沢線
	18号線	修善寺戸田線		桑木嵯峨大野中の沢道添線
	59号線	伊東西伊豆線		矢熊筏場線
	127号線	船原西浦高原線		西洞線
	411号線	西天城高原線		新町線
	大藪臨港線			駅前中通り線
	80号線	熱海大仁線		駅前線
林道	達原線			新町7号線
河川管理道				横瀬大平線
				新町13号線
				柏久保坂下1号線
				狩野橋線
				小川遠藤橋線
				土肥船原峠線
				南伝馬町1号線
				金山橋線
				尾羽根古川線
				八木沢海岸線
				港外大浦線
				八幡菅引線
				中原戸線
				東洞線
				中野線
			萬城線	

次項には、自転車ネットワーク候補路線図を示す。



図一自転車ネットワーク候補路線図

安全対策路線

自転車ネットワーク候補路線には、公共交通機関の結節点や中心市街地、文教施設周辺等が含まれる。当該エリアの路線は、地域住民や観光客の安心・安全な自転車利用が求められる。よって、自転車ネットワーク路線であると同時に安全対策路線として位置づける。

○安全対策路線の選定

安全対策路線は、「選定要件②、③」および、文教施設周辺に該当する修善寺駅及び新中学校周辺と土肥文教施設周辺の自転車ネットワーク候補路線図に示す路線を対象として選定する。

安全対策路線を表に示す。

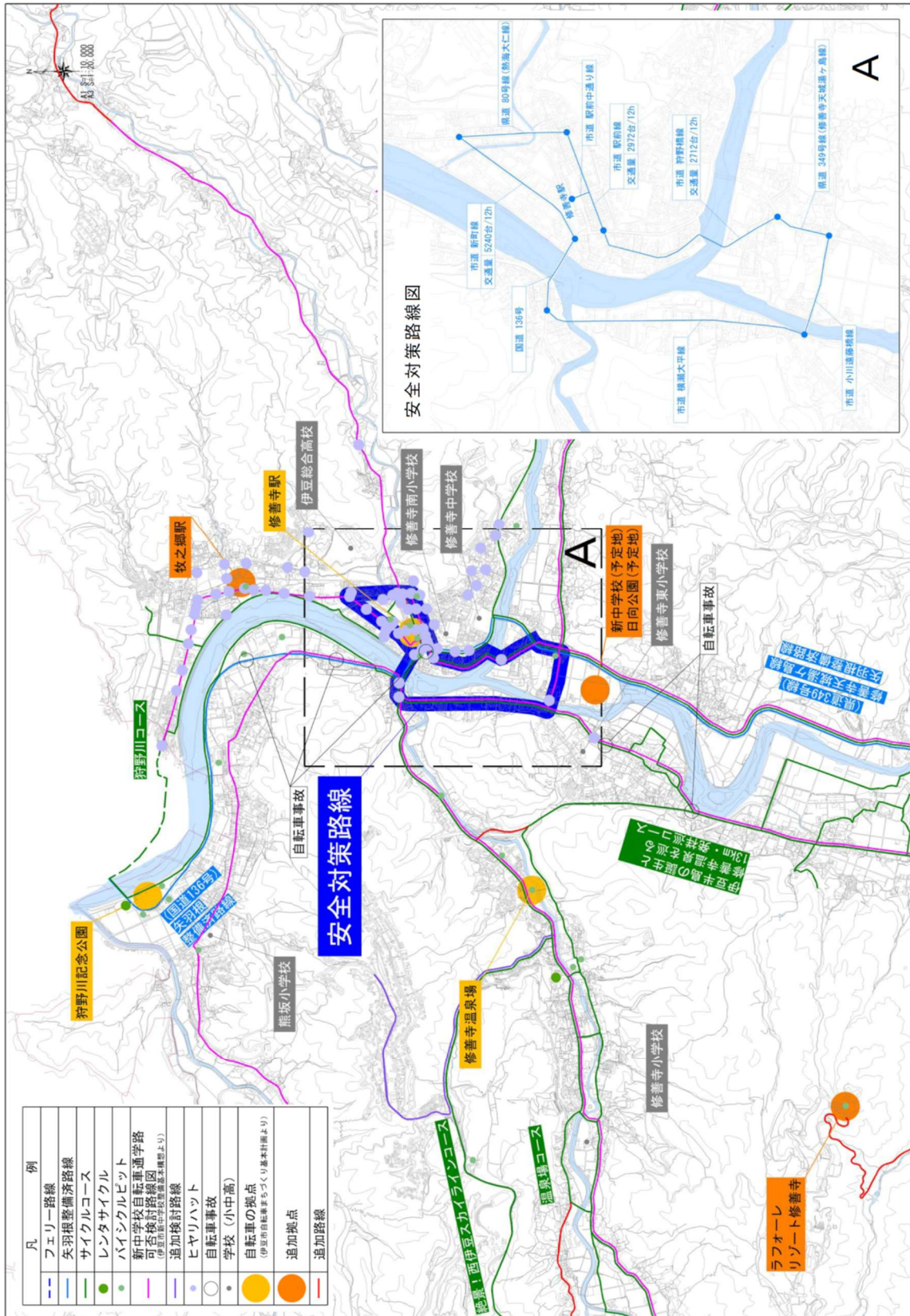
表-安全対策路線

市道	新町線
	駅前中通り線
	駅前線
	横瀬大平線
	狩野橋線
	小川遠藤橋線
	南伝馬町1号線
	金山橋線

次頁には、安全対策路線図を示す。

○修善寺駅及び新中学校予定地周辺

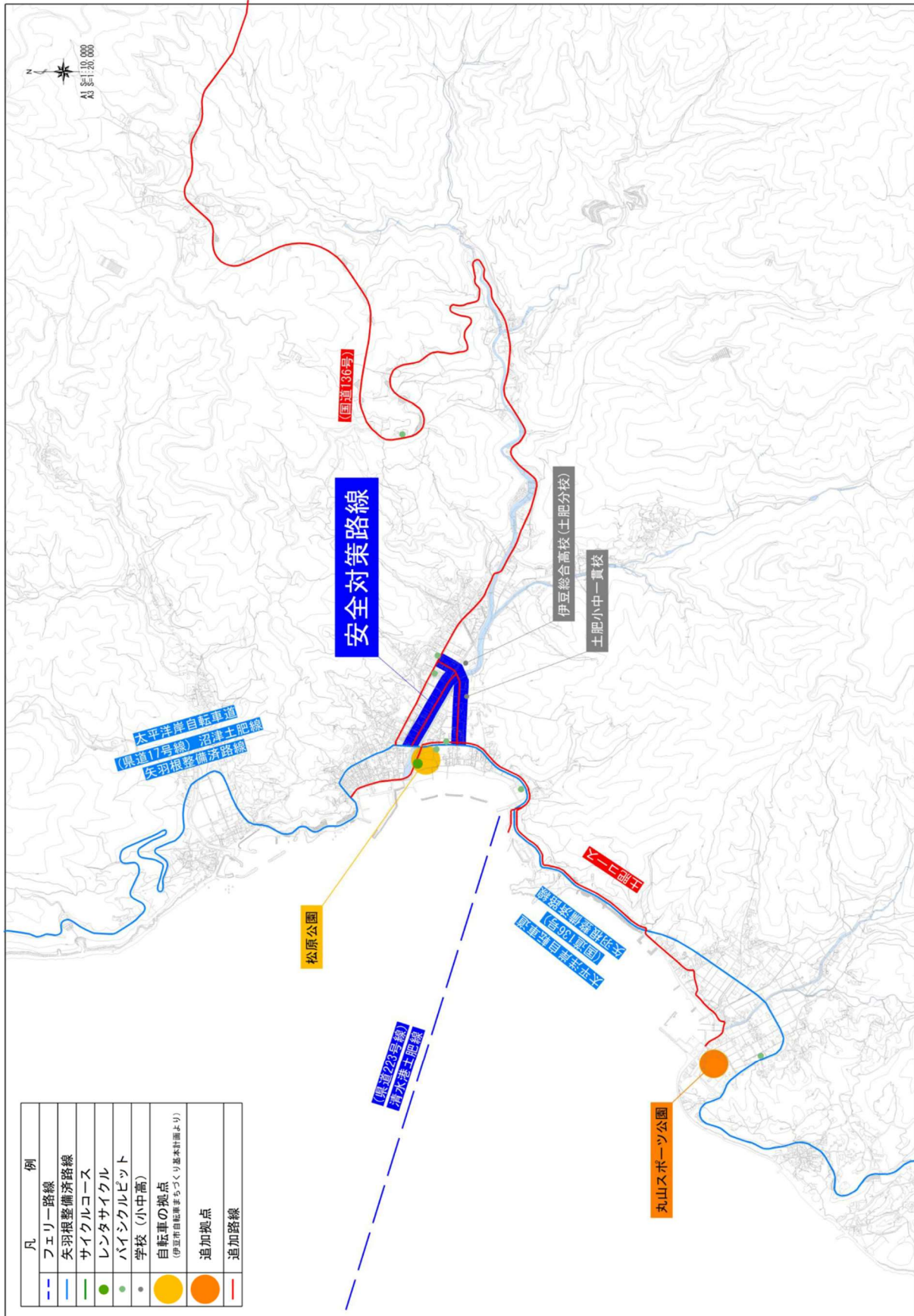
公共交通機関の結節点である修善寺駅と新中学校予定地周囲の路線では、自転車による事故、ヒヤリハット箇所が存在する。修善寺駅と新中学校予定地を結ぶ路線の中でも選定要件の重なりが多い路線を自転車ネットワークにおける安全対策路線とする。



図一 修善寺駅及び新中学校予定地周辺の安全対策路線図

○土肥文教施設周辺

土肥エリアの中心部には。土肥小中一貫校、伊豆総合高校（土肥分校）がある。文教施設周辺の安全対策路線として以下の路線を自転車ネットワーク路線に追加する。



図一土肥文教施設周辺安全対策路線

自転車ネットワーク路線 一覧

自転車ネットワーク路線

自転車ネットワーク路線は、候補路線と安全対策路線より選定。
選定理由は、基本方針に示す以下項目とする。

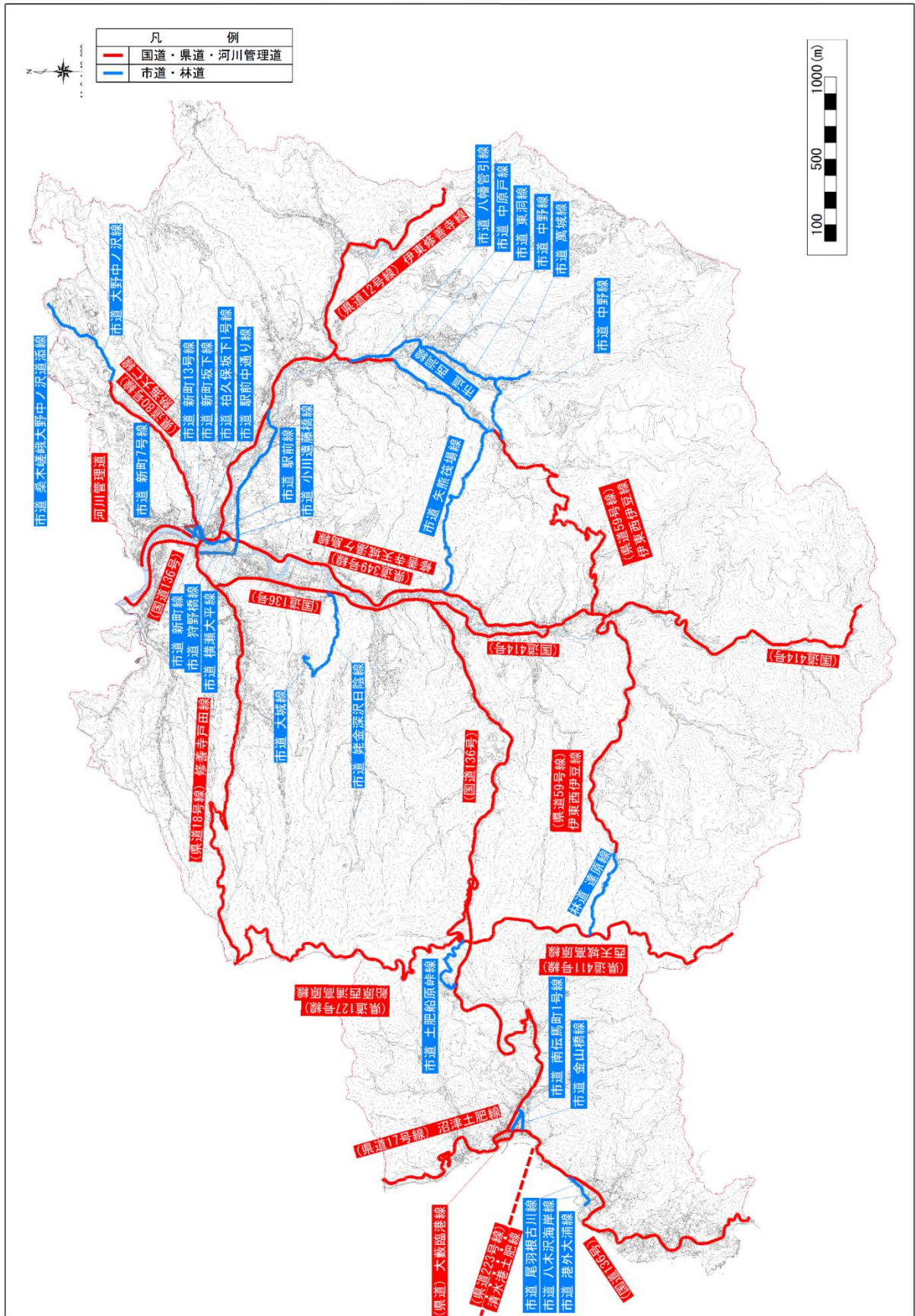
- 1、伊豆市の観光資源や地域資源、起伏に富んだ地形を活かし、伊豆らしい魅力あふれた自転車ネットワーク
- 2、新中学校自転車通学や高校生の自転車通学、特に安全に配慮すべきルート

表-自転車ネットワーク路線一覧表

国道	136号		市道	姥金深沢日陰線
	414号			大城線
県道	12号線	伊東修善寺線		大野中ノ沢線
	18号線	修善寺戸田線		桑木嵯峨大野中ノ沢道添線
	59号線	伊東西伊豆線		矢熊筏場線
	349号線	修善寺天城湯ヶ島線		西洞線
	127号線	船原西浦高原線		新町線
	411号線	西天城高原線		駅前中通り線
	大藪臨港線			駅前線
	80号線	熱海大仁線		新町7号線
	17号線	沼津土肥線		横瀬大平線
	223号線	清水港土肥線		新町13号線
林道	達原線			柏久保坂下線
河川管理道				柏久保坂下1号線
				狩野橋線
				小川遠藤橋線
				土肥船原峠線
				南伝馬町1号線
				金山橋線
				尾羽根古川線
			八木沢海岸線	
			港外大浦線	
			八幡菅引線	
			中原戸線	
			東洞線	
			中野線	
			萬城線	

自転車ネットワーク路線図

自転車ネットワークに設定する路線を示す。

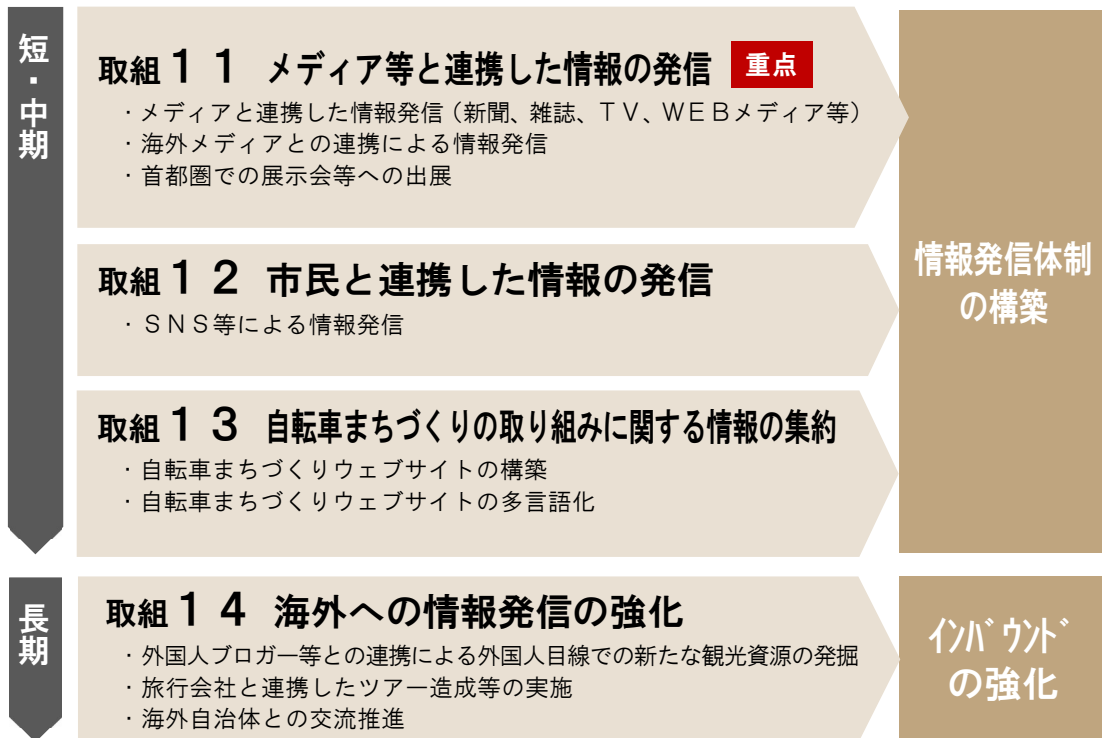


基本方針 3 情報発信の強化

各種メディアや市民と連携し、自転車と伊豆に関する情報を国内外に向けて継続的に発信していきます。

あわせて、地域全体としてまとまった情報を入手しやすいように、各主体が個別に発信していた情報を集約し、自転車と伊豆の情報収集のコアとなるウェブサイト構築します。

実現に向けた取組



取組を検証する指標



取組の方向性

自転車まちづくりの取り組みに合わせた広報や国内外のメディアと連携した共同企画など、各種メディアを活用しながら情報の発信を行います。

また、伊豆市への観光客の多くを占める首都圏と静岡県を主なターゲットに、サイクリングに関するイベント等へ出展します。

実施施策

○ メディアと連携した情報発信（新聞、雑誌、TV、WEBメディア等）

東京2020大会の自転車競技が開催される伊豆市において、自転車に関する取り組みはメディアの注目を集めるため、取り組みに合わせた広報を実施するなど、各種メディアと連携した情報発信を実施します。

○ 海外メディアとの連携による情報発信

現在、伊豆市ではインバウンドに向けた取り組みとして、海外メディアとの連携による情報発信を行っていますが、東京2020大会の開催を契機に、海外メディアとの連携を強化・拡充します。

○ 首都圏での展示会等への出展

主なターゲットである首都圏在住者に対して、自転車を活用した観光スタイルをアピールし、伊豆市への誘客を図るために、首都圏で開催されるサイクリングに関するイベントや展示会、観光に関する旅行博や観光イベントに出展します。

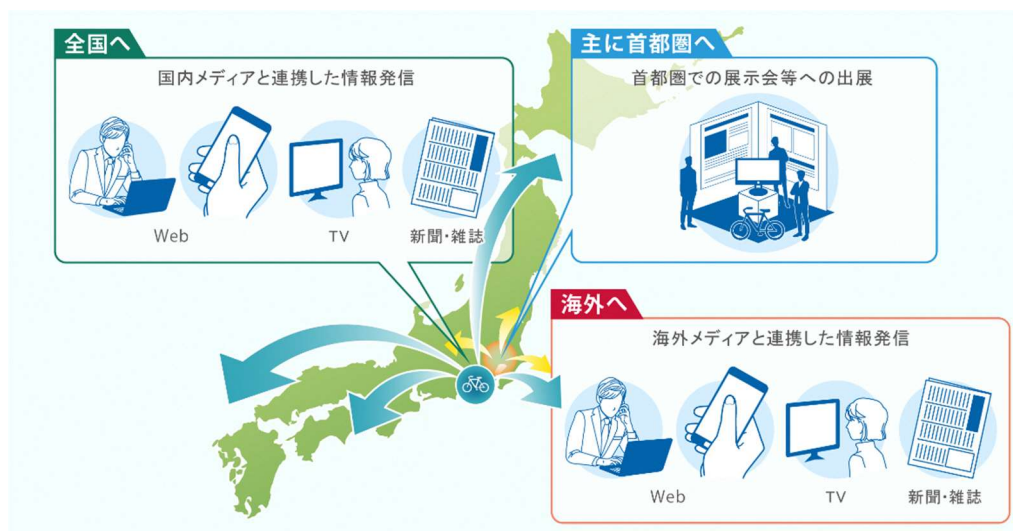


図 メディアと連携した情報発信のイメージ

取組 1 2 市民と連携した情報の発信

短・中期

長期

取組の方向性

継続的に情報発信を進めていくためには、行政だけでなく、市民の自転車チームや自転車ファンクラブ等との協力体制を構築し、SNS（フェイスブック、ツイッター等）などのメディアを活用し、旬の話題等の発信を進めていきます。

実施施策

○ SNS等による情報発信

市民自転車チームや自転車ファンクラブと協力し、発信者の顔が見える、地域が主体となった情報発信体制を構築します。

取組 1 3 自転車まちづくりの取り組みに関する情報の集約

短・中期

長期

取組の方向性

市民や観光客、訪日外国人等が、伊豆市の自転車に関する情報をウェブからすぐに取得できる環境を実現するため、自転車と伊豆の情報を集約し、一貫したブランドイメージを持つウェブサイトを構築します。

実施施策

○ 自転車まちづくりウェブサイトの構築

プロモーション等により伊豆に興味を持った人が、関連する情報をすぐに入手できるように、提供しているサービスや自転車まちづくりの取り組み等が網羅的に整理されているウェブサイトを構築します。

○ 自転車まちづくりウェブサイトの多言語化

今後ますます外国人観光客が増えていくと考えられ、ウェブからの情報収集がより一層重要となってくるため、自転車まちづくりウェブサイトの多言語化を実施します。

取組の方向性

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー創出に向けて、海外への情報発信を行うとともに、それぞれの国や地域の特性や嗜好を捉えながら、海外自治体との連携や海外メディア招聘などのプロモーションを展開していきます。

実施施策

○ 外国人ブロガー等との連携による外国人目線での新たな観光資源の発掘

東京2020大会の開催は、海外に対して伊豆市の知名度が上がる好機であるため、外国人ブロガー等との連携により、外国人を呼び込むための観光コンテンツの充実を図ります。

○ 旅行会社と連携したツアー造成等の実施

自転車を活用した観光ツアーについて、海外の旅行会社への売り込みを行うとともに、そのニーズを満たせるようなモデルプランを作成し、更なる交流人口の増加を図ります。

○ 海外自治体との交流推進

伊豆市の魅力をより多くの人に知ってもらうために、自転車施策に力を入れている海外自治体を対象に、イベントへの相互派遣等による交流を検討し、実現を目指します。



写真 台湾ブロガーによる取材



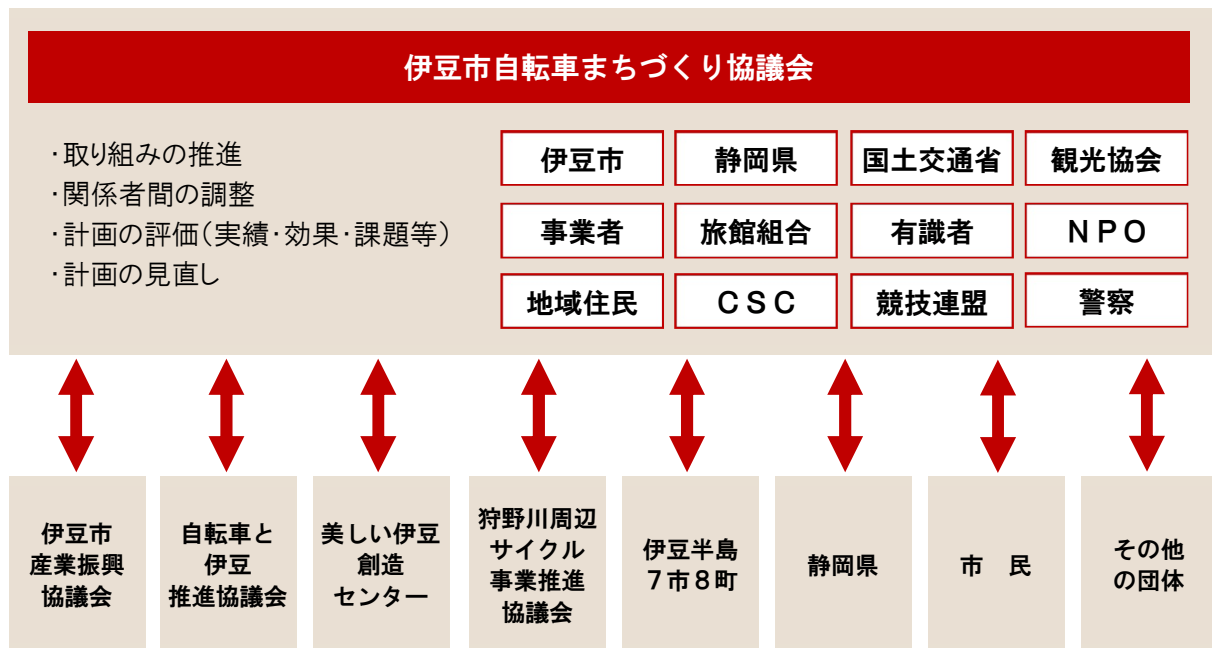
写真 タイメディアによる撮影

4 自転車まちづくりの進め方

4.1 推進体制の構築

市、県、観光団体、民間事業者、有識者、NPO、地域住民等が、本市の目指すべき将来像について理解を深め、それぞれの役割を果たしながら相互に連携し、統一感を持った環境整備等の取り組みを進めていくことが重要です。

そのため、新たな取り組みの実施や関係者間の調整を行うなど、取り組みの着実な推進の中心的な役割を担う推進組織を構築します。



伊豆市産業振興協議会

観光庁が推進する日本版DMOの候補法人(地域DMO)であり、伊豆市役所、(一社)伊豆市観光協会、伊豆市商工会、伊豆の国農業協同組合(JA伊豆の国)(今後加盟予定)で組織する団体のこと。

「自転車と伊豆」推進協議会

旧サイクルメッカ伊豆推進協議会が名称を変更した団体のこと。伊豆市が事務局となり周辺市町の観光協会、日本サイクルスポーツセンターをはじめとする県内外の自転車関係団体で構成。自転車に関する事業を広域的に推進。

美しい伊豆創造センター

静岡県及び伊豆地域7市6町の行政に加え、区域内の観光・商工関係団体、交通事業者等を会員として、官民協働により観光キャンペーン、インバウンド誘致、DMO組織形成に向けたマーケティング、人材育成事業に取り組んでいる団体のこと。

狩野川周辺サイクル事業推進協議会

サイクリスト誘客に向けた利活用及び地域振興・発展を推進するとともに、伊豆全域におけるサイクリストの利便性向上の先進的な取組みを検討・実施することを目的に、沼津市(事務局)、伊豆市、伊豆の国市の3市で組織する団体のこと。

伊豆半島7市8町

伊豆市、沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町

図 推進体制のイメージ

4.2 進捗確認

進捗確認は、取り組みの進捗状況や評価指標を、伊豆市自転車まちづくり協議会において毎年度確認し、その結果を踏まえ、P D C Aサイクルに則り、翌年度の方向性や具体的な取り組みについて検討します。

最終目標年次である令和7年度には、これらの指標について、その実績・効果・課題等を整理し、翌年度以降の自転車まちづくりに反映させます。

また、計画の実施状況や自転車まちづくりに関する情報について、市のホームページや広報誌等を活用し、市民や観光客に分かりやすく伝える取り組みも進めます。

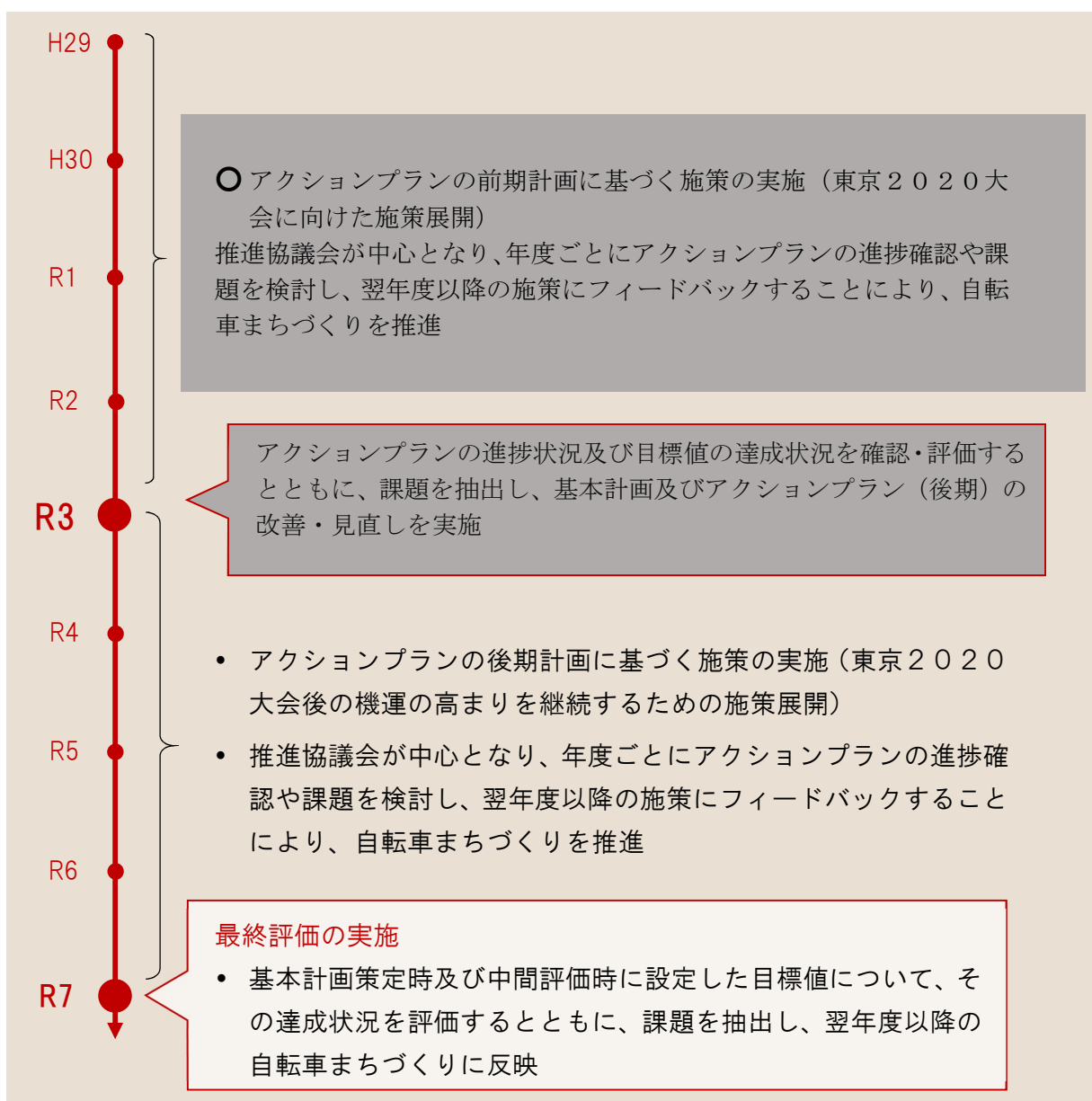


図 基本計画の進め方

5 アクションプラン

基本方針1 市民への自転車 の浸透	取組	主な施策	スケジュール										実施主体
			前期					後期					
			H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
取組1. 自転車競技への関心の向上 重点	市民や学生を対象とした自転車競技大会への招待	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC、競技連盟
		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC
		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC、競技連盟
		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC、競技連盟、観光協会、住民
		○	●										市、CSC、競技連盟、住民
取組2. 自転車を楽しむ、コアとなる人材 の育成 重点	市市民自転車チームの発足	○	●										市、CSC、競技連盟、住民
	市民自転車チームによるプロモーション活動の実施	○	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC、競技連盟、住民
	市民による自転車ファンクラブの設立	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、NPO、住民
	子供たちに向けた自転車教室の継続と拡充	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC、競技連盟
	学校等における国内外の自転車競技選手等と交流の充実		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC、競技連盟、学校
取組3. 次世代を担う子供たちの育成	園児・児童・生徒の自転車競技大会への招待	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、CSC、競技連盟、学校
	伊豆市内への自転車店の誘致					○			●				市
	自転車購入時の補助制度の導入					○			●				市
	東京2020大会を継承したイベントの開催					○			●				市、CSC、競技連盟、観光協会

○：検討 ●：実施 →：継続・改善

取組	主な施策	スケジュール														実施主体	
		前期							後期								
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7							
基本方針2 受入体制の整備	取組6. サイクリングモデルコースの設定 重点	テーマやストーリー性の設定によるコースづくり (プロモーションを兼ねて実施)	●														市
		サイクリングマップの作成	●														市
		サイクルシェアリングの拠点拡大	●	→													市、NPO、観光協会
	取組7. サイクルシェアリングの充実 重点	サイクルシェアリングのサービス拡充 (貸出台数の増加・車種の充実・ウェブサイトの充実等)		●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、NPO、観光協会
		温泉・旅館におけるサイクルシェアリングの貸出・返却		○	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、NPO、旅館組合
		温泉・旅館における自転車の持ち込み・預かり等サービスの普及		○	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、旅館組合
	取組8. 温泉・旅館による自転車の受け入れ体制の充実 重点	従業員に向けた自転車の取り扱い等の講座の開催		●	→												市、旅館組合
		観光施設等への駐輪スペース、バイクラックの設置		●	→	→											市、県、観光協会
		観光施設等への空気入れ、簡単な工具の設置		●	→	→											市、観光協会、観光事業者
	取組9. 観光施設や交通事業者との連携によるサービスの充実	鉄道・バスの輸送環境・サービス向上に向けた取組の充実		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、交通事業者
道の駅等における自転車利用者向けの駐車場提供サービスの拡充				●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、国、観光協会	
自転車のトラブルに対応したレスキューサービスの提供						○										市、観光協会、交通事業者	
サイクリングコース上の危険箇所への安全対策の実施				→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、県、国	
取組10. みちの整備	案内サインの整備		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、県、国	

○：検討 ●：実施 →：継続・改善

取組	主な施策	スケジュール											実施主体	
		前期					後期							
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7				
基本方針3 情報発信の強化	取組11. メディア等と連携した情報の発信 メディアと連携した情報発信(新聞、雑誌、TV、WEBメディア等) 重点	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、観光協会	
			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、観光協会	
			●	→	→	→	→	→	→	→	→	→	市、観光協会、住民	
		○	●	→									市、観光協会	
取組12. 自転車まちづくりの取組に関する情報の集約 重点	自転車まちづくりウェブサイトの構築 自転車まちづくりウェブサイトの多言語化	○	●	→									市、観光協会	
		○	●	→									市、観光協会	
取組13. 海外への情報発信の強化	外国人プロガー等との連携による外国人目線での新たな観光資源の発掘 海外メディアとの連携による情報発信 旅行会社と連携したツアー造成等の実施 海外自治体との交流推進		○	●	→				○	●			市	
			○										市	
										○	●			市、観光事業者
										●	→	→	→	市

○：検討 ●：実施 →：継続・改善

参考資料

伊豆市自転車まちづくり計画策定委員会における審議の経過

開催日(年月日)	審議事項
第1回 伊豆市自転車まちづくり 計画策定委員会 (平成28年11月25日)	○計画策定の趣旨・スケジュールについて ○伊豆市における現状と計画の方向性について
第2回 伊豆市自転車まちづくり 計画策定委員会 (平成28年12月27日)	○計画策定のスケジュールについて ○サイクルシェアリング実証実験の中間報告 ○自転車先進地の現地視察報告 ○計画(骨子)について
第3回 伊豆市自転車まちづくり 計画策定委員会 (平成29年2月7日)	○計画策定のスケジュールについて ○方針と取り組み内容について
第4回 伊豆市自転車まちづくり 計画策定委員会 (平成29年3月13日)	○計画策定のスケジュールについて ○計画(案)について



写真 伊豆市自転車まちづくり計画策定委員会の様子

伊豆市自転車まちづくり計画策定委員会 委員名簿

委員区分	氏名	役職等
学識経験者	◎千葉 学	東京大学大学院 教授
自転車業界	松村 友子	一般社団法人 静岡県自転車競技連盟 事務局長
	佐藤 和広	一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター 部長
交通事業者	斎藤 清孝	伊豆箱根鉄道(株) 鉄道部 運輸課長
	山本 基	(株)新東海バス 副支配人
	稲垣 忠明	(株)エスパルスドリームフェリー 企画担当部長 兼 営業部副部長
その他	藤原 正美	伊豆市観光協会 事務局長
	後藤 順一	NPO法人すてきなごえん 理事長
	内田 政雄	伊豆市体育協会会長
	井邑 珠実	自転車愛好家(市内在住)
行政	梅村 幸一郎	国土交通省沼津河川国道事務所長
	古屋 徹之	沼津土木事務所 技監兼修善寺支所長
	渡邊 友将	大仁警察署 交通課長
	鈴木 薫	伊豆市産業部長 兼 東京オリンピック・パラリンピック推進課長
	斎藤 満	伊豆市建設部長
	金刺 重哉	伊豆市教育部長
	田村 英樹	伊豆市建設部理事
	大路 弘文	伊豆市東京オリンピック・パラリンピック推進課 主幹
オブザーバー	小泉 達也	美しい伊豆創造センター 総務・企画グループ ディレクター

◎委員長

東京 2020 大会前の追加項目

令和 3 年 3 月

「伊豆市自転車まちづくり基本計画」の位置付け

・自転車活用推進法に基づく「自転車活用推進計画」と位置付ける。

東京 2020 大会後の追加項目

令和 4 年 3 月

1 オリパラ競技会場の聖地化

① 東京 2020 大会“自転車競技会場の聖地化”

レガシー創出に向けた取組として、国内外の各種自転車競技大会への協力・開催や市民利用を一層促進する取組など、県や日本サイクルスポーツセンターと連携した活性化に努めます。

② 国内外の各種自転車競技大会への協力・開催

東京 2020 大会が開催された日本サイクルスポーツセンターを最大限活用し、機運の高まりを継続させる事業への協力をを行います。

③ 日本サイクルスポーツセンターの利用促進

日本サイクルスポーツセンターの利用促進の向上のために事業を企画して、市民が集う場所とします。

④ マウンテンバイク練習コースの活用

日本サイクルスポーツセンター付近にある、静岡県が市有林を利用して整備したオリンピック選手向けマウンテンバイク練習コースを有効活用します。

2 自転車を活用したまちづくり

① “サイクリストの拠点”整備

サイクリストの交流・宿泊などの拠点となるゲストハウスの整備を支援するとともに、自転車を市民の生活や文化に根付かせる取組を推進します。

② 市民の自転車乗れる率 100%に向けた取組の推進

これまでも開催している小学生向けの自転車乗り方教室、未就学児向けのランニングバイク出前教室を継続して、市民誰もが自転車に乗れるようになることを目指します。

③ 自転車を活用したコンテンツ開発と販売

市内ガイドサイクリスト、伊豆市産業振興協議会と共にサイクリングコースのコンテンツ開発と商品化を目指し、今後の観光振興につなげます。

④ 自転車を活用した健康づくりの推進

市民向けに日本サイクルスポーツセンター、JKA と共に生活習慣病の予防、自転車の運動効果による健康増進事業を展開します。

⑤ 地域密着型自転車プロチームとの協働

県内にあるサイクリングチームに協力していただき、自転車の魅力向上など自転車の素晴らしさを伝えながら市民と交流を図ります。

⑥ 自転車競技の普及に向けた取組の推進

トラック・ロード・MTB・BMXといった自転車競技を普及させるために、日本サイクルスポーツセンターや競輪選手養成所と連携し、見学会や練習会場提供などにより、自転車競技ファンや競技人口の裾野拡大を図ります。

3 自転車ネットワーク路線の追加

自転車通行空間整備のため、自転車ネットワーク路線名・路線図を追加。